

# RESCUE VOICE II

～阿吽の呼吸の先に見えた一筋の光～ (No.2)

警防課(救助)



## ▼ 事案概況

本事案は、マンション敷地内のごみ集積場において、男性1名がドラム式貯留排出機の清掃中に、ごみ排出用ベルトコンベアとローラーの間に両腕が巻き込まれた事案である。

覚知日時 3月16日(木)

指令時刻 14時08分

消防隊到着 14時09分

救出完了 14時15分

所要時間 14時38分

負傷者 23分

(清掃員 左上腕・右尺骨開放  
骨折)

## ▼ 出場途上

「[ミ]のドラム機に手を挟まれ抜けなくなっている」との指令内容を受けたN救助隊の車内では、M隊長の指示のもと、あらゆる状況を想定した救出方法と、要救助者の状態のイメージを膨らませていた。そんな中、M隊長の「この現場は時間との勝負になるかもしれないぞ!!」との一言に車内は更

なる緊張につつまれた。

## ▼ 現場到着

到着すると、M隊長はすぐさま要救助者のもとに駆け付け、挟まれている状況を確認。要救助者の状況は、手掌部だけではなく両腕までがゴミドラムへ続くベルトコンベアに挟まれていた。想像を超える状況に、全隊員が容易に引き出せる状況で無いと脳裏に走ったのは言うまでもないであろう。

M隊長が「今から助けるからもうちょっと頑張ってください!!」と要救助者に声を掛けると、要救助者の意識はしっかりしていたものの、返事の声に力はなくその表情は痛みから苦悶に満ちていた。

M隊長は、到着している隊員を集結させ、「各自の活動は迅速に、各々コミュニケーションしかりとって連携をとっていくぞ。K隊員は、まず二次災害防止のための電源遮断、それ以外の者は切断器具とレスキューツールの準備。N救急隊は要救助者の観察及び医師要請を本部に連絡」と、事前に想定していた救出方法と任務分担を的確に指示した。

## ▼ 救出開始

両腕が挟まれている状況は、右腕は手掌部が挟まれているだけで間隙を作成すればすぐに抜くことができそうである。左腕は、上腕部までベルトコンベアのローラーに巻き込まれており、右腕を抜いてからでなければ左腕には着手できそうにない。すなわち、それぞれ異なる救出方法が必要になることが予想された。

S特別救助隊隊長の「ローラーはボルト固定を緩めたら、上下する構造やから下降させれば緩和できますよ」との進言により、ローラーを下降させて間隙を作成し救出する方法を選択。機械の上部からは挟まれている状況が確認できないことから、同時にベルトコンベア部分の破壊に着手した。的確な任務分担による全隊員の無駄のない活動が目まぐるしく展開された。

「全員が救出のための手段を考え進言するともに、日ごろの訓練成果が発揮できたことで迅速な救出ができた」とM隊長は後に話している。ベルトコンベアのゴム部分をカッ